令和４年度　特別支援教育体制整備推進事業

学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進会議のまとめ

～切れ目ない支援に向けた連携体制の構築に向けて～

秋田県教育庁特別支援教育課

県教育委員会においては、学校と放課後等デイサービス事業所の相互理解と障害のある子どもに対する支援の共有を図ることにより、子どもや保護者への切れ目ない支援に向けた連携体制の構築を促進することを目的とした取組を実施しています。

令和２・３年度には「学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進に向けた研修会」を県内３地区６市で開催し、取組内容を「学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進のためのガイド」（※参考資料）にまとめました。

※参考資料：「学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進のためのガイド」

（令和４年３月　教育庁特別支援教育課・県健康福祉部障害福祉課）

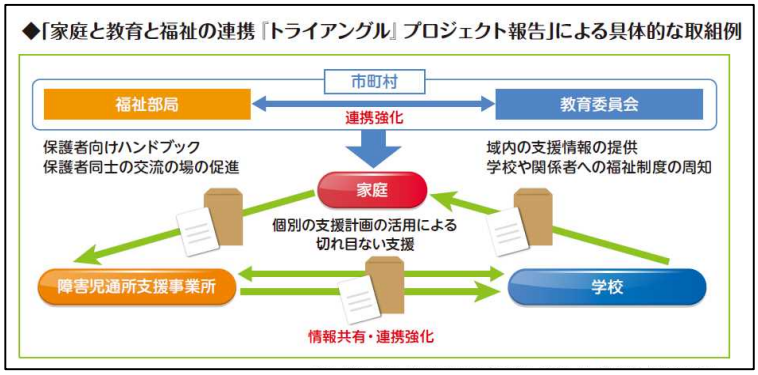
令和４年度からは、県内１市をモデル市に指定し、「学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進会議」への参加と、連携促進のための具体的な取組を依頼しています。

◇学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進会議◇

趣旨	学校と放課後等デイサービス事業所の相互理解と障害のある子どもに対する支援の共有を図ることにより、子どもや保護者への切れ目ない支援に向けた連携体制の構築を促進する。	
委員	学識経験者（大学教員）	秋田大学教育文化学部　准教授
	小学校	由利本荘市立新山小学校　教諭
	特別支援学校	県立ゆり支援学校　教諭
	放課後等デイサービス事業所	放課後等デイサービス事業所「のびのび」　児童発達管理責任者
	障害児相談支援事業所	市基幹相談支援センター　相談支援専門員
	福祉支援課	市健康福祉部福祉支援課　参事兼課長補佐兼障がい支援班長
	教育委員会	市教育委員会学校教育課　指導主事兼班長

ここでは、今年度のモデル市である由利本荘市における１年間の実践とその成果を紹介しますので、学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進のモデルとして参考にしてください。

なお、国では障害のある子どもの生活と成長を支える上で、教育と福祉の連携は重要であることから、様々な施策を講じています。右の図の「家庭と教育と福祉の連携『トライアングル』プロジェクト報告」もその一つです。



モデル市（由利本荘市）の取組と成果

1　現状　第１回学校と放課後等デイサービス事業所連携促進会議より～令和４年６月１０日（金）

・学校教職員の福祉サービスや放課後等デイサービス事業所に関する理解が不足している。
・学校と放課後等デイサービス事業所の情報共有が不足している。

2　主な取組

＜令和４年度　由利本荘市特別支援教育コーディネーター研修会＞

令和４年７月６日（水）

目的：学校の教職員が福祉サービス（放課後等デイサービス事業所）を理解する。

内容：◇参加者　小学校、中学校の特別支援教育コーディネーター（教頭、教諭）
◇説明　「関係機関との連携について～福祉の立場から～」
由利本荘市障がい者基幹相談支援センター　相談支援専門員　伊藤　真樹　氏

■参加者アンケートより

・障がい者基幹相談支援センターなどの関係機関を初めて知ることができた。
・福祉との連携は大切だと改めて感じた。長期的、多面的な支援が必要だと思う。

＜学校と放課後等デイサービス事業所の連携協議会兼由利本荘市障がい者支援協議会＞

令和４年７月２８日（木）

目的：既存の「由利本荘市障がい者支援協議会せいかつ部会」と兼ねて開催し、互いの役割を知り、情報共有し合う。

内容：◇参加者　学校教職員（教頭、教諭）、放課後等デイサービス事業所職員、相談支援専門員　等
◇事例発表　由利本荘市立新山小学校　秋田県立ゆり支援学校
◇グループ協議、全体共有、講評（秋田大学教育文化学部　准教授　鈴木　徹　氏）

■講評より

・ノット（結び目）ワーキングが大事である（連携を前面に出すのではなく、必要な時に集まれる関係、グッドニュースを伝え合える関係）。本日は互いの顔を合わせ話し合えたのが良かった。

＜放課後等デイサービス事業所の見学会＞　令和４年１２月１４日（水）

目的：子どもの放課後生活を知り、教育活動に役立てる。

内容：◇参加者　市内各小・中学校と県立ゆり支援学校の教職員
◇見学先　放課後等デイサービス事業所３か所

■参加者アンケートより

・学校と放課後等デイサービス事業所がつながることの大切さを改めて感じた。
・放課後等デイサービス事業所での子どもの表情や細かな支援の工夫を知ることができた。

3　評価　第２回学校と放課後等デイサービス事業所連携促進会議より～令和５年１月２４日（火）

小学校教諭

　研修会は、特別支援教育コーディネーターの役割を担う先生方が、福祉サービスを理解できる効果的な取組でした。私は、校内や他校の特別支援学級の先生方に放デイとの連携の大切さを説明し、周知に取り組みました。

放課後等デイサービス事業所
児童発達支援管理責任者

　連携協議会などで、学校の先生方と直接会えたことで相談しやすくなりました。今度は我々が、学校での子どもたちの様子を見てみたいです。

特別支援学校教諭

　家庭、教育、福祉で情報共有できるモニタリングへの同席や、放デイの見学をしたことで、子どもの生活をイメージしやすくなり、保護者との情報共有がスムーズになりました。

障がい者基幹相談支援センター
相談支援専門員

　垣根を越えた連携の大切さと、連携の要となる自分たちの役割の大きさを改めて実感しました。主任保育士研修会でも福祉について説明する機会をいただきました。ライフステージの移行期にも切れ目ない支援をしていくことが大切だと感じました。

教育委員会
指導主事兼班長

　各取組は福祉との連携により実現できました。今年度の取組は継続していきたいと思います。今後は活用しやすい個別の教育支援計画の様式を検討し、家庭と教育と福祉の連携を充実させていきたいです。

福祉支援課
参事兼課長補佐
兼障がい支援班長

　相談支援専門員が入った取組は有効だと思います。「者」になる前から、子どもの生活全体を捉え、支援者同士が連携する取組は継続し、深めていきたいと思います。

4　まとめ

＜成果＞

〇学校教職員が、放課後等デイサービス事業所の存在や役割を知ることができた。

〇学校と放課後等デイサービス事業所の連携協議会の参加者は、グループ協議の意見交換等を通して連携の必要性や在り方を考えることができた。

〇各委員は、効果的な実践に向けて相談を重ね、協力し合いながら取り組んだことで、さらに相談しやすい関係性を築くことができた。

〇各委員は、所属先や訪問先において教育と福祉の連携の必要性を周知する等、意識的に取り組んだ。周知先からは福祉サービスに関する問合せや、放課後等デイサービス事業所に関する情報提供の依頼等がある等、学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進に向けて、教育と福祉それぞれの立場での新しい取組が広がった。

＜今後に向けて＞

・放課後等デイサービス事業所の役割を学校全体に周知するための取組は、来年度以降も継続する。

・放課後等デイサービス事業所職員が学校での児童生徒の様子を知るための見学機会を設ける。

・保護者も含め、対象児童生徒の目指す姿や支援方法、支援者の役割を共有し合う取組を工夫する。（個別の教育支援計画の作成、活用）

＜助言＞　　秋田大学教育文化学部　准教授　鈴木　徹　氏

連携を深めるために必要な二つの側面

①土台を固めるためにお互いを知り合う取組（令和４年度の取組の成果）

お互いを知り、必要な時に集まることができる関係性を築くきっかけづくりができた。

→

②実際に実践を積み上げていく取組（今後に向けて）

・人が変わることで切れないようにする。そのためにも、今年度の取組は継続が必要。
・土台を生かした連携ケースを負担なく積み上げてほしい。
・各計画は子どもを語り合うための資料として活用してほしい。